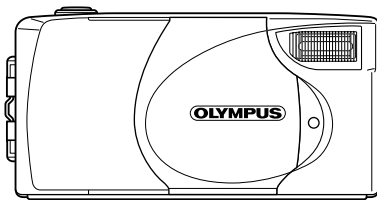
OLYMPUS®

# CAMEDIA

デジタルカメラ

# C-100

カメラ操作編

# 取扱説明書

● このたびは、オリンパス製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

● ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。

# はじめに

本書はカメラの操作方法について詳しく説明しています。お読みになった後は大切に保管してください。

## 本取扱説明書について

- 本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。最新の情報については、カスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- 本書の内容については万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたら、カスタマーサポートセンターまでご連絡ください。
- 本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止されています。また、無断転載は固くお断りします。
- 本製品の不適当な使用により、万一損害が生じたり、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の故障、オリンパス指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。



## 電波障害自主規制について

- この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
- 取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。
- 飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
- 本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI 基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、指定のケーブルをご使用ください。

## 商標について

本書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

## カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会(JEITA)で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

# INDEX

# もくじ

★このマークは初心者の方におすすめのページです。



## 準備編 13



## 撮影編 27

## 再生編 50



## その他の機能 61

## 困ったときは… 76



●本書の表記について

| | |
|---|---|
| 注意 | 故障やトラブルになるような、重要な注意事項が書かれています。絶対に避けていただきたい操作も書かれています。 |
| メモ | 活用するために、知っておくと便利なことや役に立つ情報などが書かれています。 |
| ☞ | 本書での参照先のページを表します。 |
| ★ | 初心者の方におすすめのページを表します。 |

# 安全にお使いいただくために

本書は、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

| | |
|---|---|
| ⚠ 危 険 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。 |
| ⚠ 警 告 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。 |
| ⚠ 注 意 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。 |

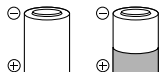
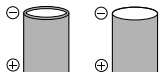
# 電池についてのご注意

液もれ、発熱、発火、破裂、誤飲などによるやけどやけがを避けるため、以下の注意事項を必ずお守りください。

### ⚠ 危 険

- 充電式電池は、専用のオリンパス製電池と充電器をご使用ください。電池は指定の充電器以外で充電しないでください。ご使用になる際は、電池、充電器等の説明書をよく読んで正しくお使いください。
- 直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしないでください。端子部安全弁の破壊やアルカリ液の飛散が生じ危険です。
- ＋－を金属等で接続したり、金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
- 電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込みなどに直接接続しないでください。
- 火中への投下や、加熱をしないでください。
- 電池の液が目に入った場合は、失明の原因になります。こすらずに、すぐ水道水などのきれいな水で充分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。
- 電池を誤って飲まないよう、乳幼児の手の届かぬ場所で保管および使用してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。
- 強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など、高温の場所で使用・放置しないでください。

## ⚠ 警　告

- 電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。
- 以下の内容をお守りにならない場合、電池の液漏れ、発熱、発火、破裂により、火災やけがの恐れがあります。
  - ·このカメラで指定されていない電池を使わないでください。
  - ·古い電池と新しい電池、充電した電池と放電した電池、また、容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
  - ·充電できないアルカリ電池やリチウム電池CR-V3（リチウム電池パック）を充電しないでください。
  - ·＋－を逆にして装着・使用しないでください。また、機器にうまく入らない場合は無理に接続しないでください。
  - ·外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れがある電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池も絶対にご使用にならないでください。
- このような形状の電池はご使用になれません。

- ニッケル水素電池の充電が、所定充電時間を超えても完了しない場合は、充電を中止してください。
- 液漏れ、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止し、販売店またはオリンパスサービスステーション（裏面参照）にご相談ください。
- 電池の液が皮膚・衣類へ付着した時は、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に障害を起こす原因になります。
- カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。
- 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。

## ⚠ 注　意

- 電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。
- 電池室内の電極が汚れていると、電池の寿命が著しく短くなります。電池室内部を触らないでください。
- オリンパス製ニッケル水素電池はオリンパスデジタルカメラ「CAMEDIA（キャメディア）」専用です。他の機器に使用しないでください。
- 充電式電池は必ず4本同時に充電してご使用ください。
- 充電式電池をお買い上げ後、初めてご使用になる場合、また長時間使用しなかった場合は、必ず充電してください。
- 長期間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておいてください。電池の液漏れ、発熱により、火災やけがの原因になります。
- 電池を使ってカメラを長時間使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。やけどの原因となります。
- 撮影条件、使用環境および電池により撮影枚数が減少する場合があります。
- アルカリ電池は電池の銘柄、製造日からの保存期間、使用温度により内部抵抗・容量に差があるため、ニッケル水素電池やCR-V3などに比べて寿命が極端に短い場合があります。また、低温時は使えません。
- マンガン電池は使用できません。電池寿命が短いばかりでなく、電池の発熱等により本体に損害をもたらす恐れがあります。
- 電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用する時は、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
- 長期間の旅行などには、予備の新しい電池を用意することをおすすめします。とくに海外では、地域によって入手困難なことがあります。
- ニッケル水素電池ご使用推奨温度範囲
  放電（機器使用時）：0℃～40℃
  充電：0℃～40℃
  保存：－20～30℃
  上記温度範囲外での使用は性能・寿命の低下の原因となります。保管の際はカメラから電池を取り出してください。
- 電池を捨てる際は、地域の規定に従って処分してください。

# 製品の取り扱いについてのご注意

## ⚠ 警　告

- フラッシュを人（とくに乳幼児）に向けて至近距離で発光しないでください。目に近づけて撮影すると、視力傷害をきたす恐れがあります。とくに乳幼児に対して、至近距離で撮影しないでください。
- 日光および強い光に向けて本製品を使用しないでください。視力傷害をきたす恐れがあります。
- 可燃性ガスおよび爆発性ガス等が大気中に存在する恐れのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。
- 幼児、子供の手の届く範囲に放置しないでください。以下のような事故発生の恐れがあります。
  ·小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
  ·目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
  ·カメラの動作部でけがをする。
- 湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所で使ったり、保管しないでください。火災や感電の原因となります。
- フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しないでください。また、連続発光後、発光部分に手を触れないでください。やけどの恐れがあります。
- 万一、水に落としたり、内部に水が入ったりした時は、火災や感電の原因となりますので、速やかに電池を抜き、販売店またはオリンパスサービスステーション（裏面参照）にご相談ください。
- 分解、改造はしないでください。感電やけがをする原因となります。

## ⚠ 注　意

- 異臭、異常音、もしくは煙が出たりするなどの異常が生じた場合は、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、販売店またはオリンパスサービスステーション（裏面参照）にご連絡ください。火災や、やけどの原因となります。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）
- 濡れた手で操作しないでください。感電の危険があります。また、AC アダプタの抜き差しは、濡れた手では絶対にしないでください。
- 異常に温度が高くなるところに置かないでください。部品が劣化したり、火災の原因となります。

- カメラをストラップで下げている時は、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。怪我や事故の原因となることがあります。
- カメラで指定されている専用ACアダプタ（EIAJ規格・極性統一型プラグ付）以外は、絶対に使わないでください。カメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。また別売のACアダプタは日本国内用です。海外ではご使用になれません。専用以外のACアダプタの使用により生じた障害は保証しかねますので、あらかじめご了承ください。
- 電源コードを傷つけないでください。ACアダプタのコードを引っ張ったり、継ぎ足したりは絶対にしないでください。必ず電源プラグを持って、抜き差しを行ってください。以下の場合はただちに使用を中止し、販売店またはオリンパスサービスステーション（裏面参照）に御相談ください。
  ·ACアダプタやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出た場合。
  ·ACアダプタのコードに傷、断線、またはプラグに接触不良があった場合。

## 使用条件についてのご注意

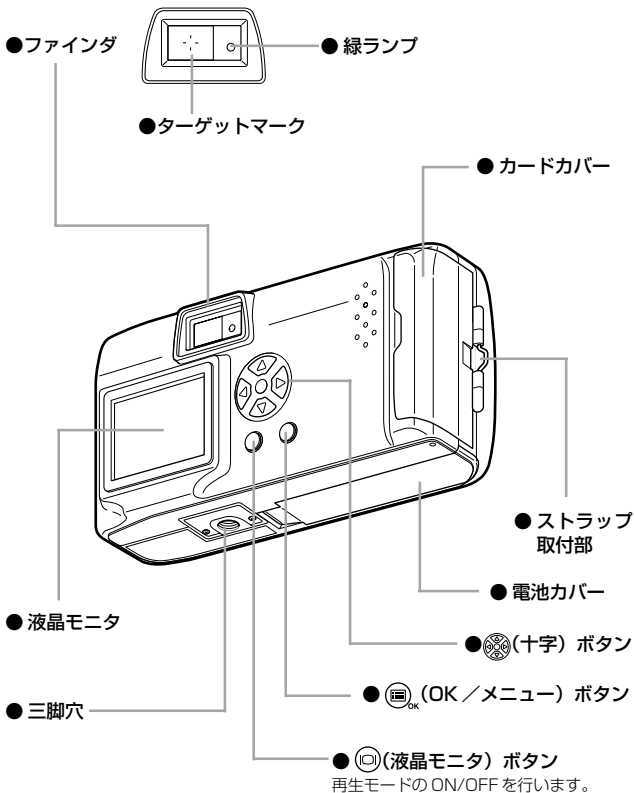
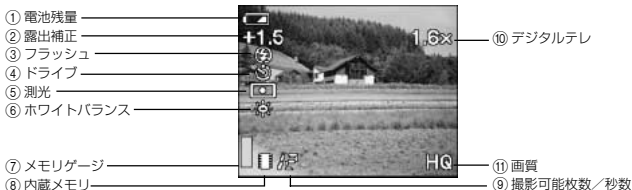
- 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。本製品を使用中または保管する場合、以下のような場所で長時間使用したり放置すると動作不良や故障の原因となる可能性がありますので避けてください。
  ·直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど
  ·高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
  ·砂、ほこり、ちりの多い場所
  ·火気のある場所
  ·水に濡れやすい場所
  ·激しい振動のある場所
- カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
- レンズを直射日光に向けて撮影または放置しないでください。CCD※の褪色・焼きつきを起こすことがあります。
- 長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
- 三脚に取り付ける際、カメラを回さず、三脚のネジを回してください。
- 本体の電気接点部には手を触れないでください。
- レンズに無理な力を加えないでください。

※ CCD（charge coupled device）とは、レンズを通して入ってきた光を受けて、電気記号に変換する素子

## 液晶モニタとバックライトについて

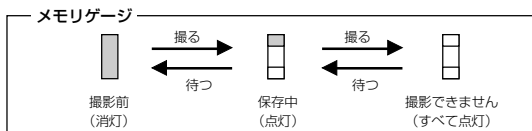
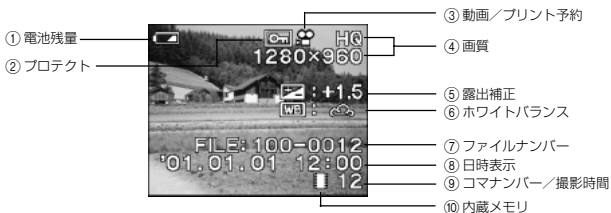
- 一般に低温になるにしたがってバックライトは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用する時は、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下したバックライトは、常温に戻ると回復します。
- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりする恐れがあります。
- 被写体が斜めの時、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見える事があります。また、晴天下のような明るい場所で撮影した画像には、わずかに縦スジが入る場合がありますが、故障ではありません。
- **本製品の液晶モニタは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**
- **本製品の液晶モニタに使用している液晶画面のバックライトには寿命があります。画面が暗くなったり、ちらつき始めたら、オリンパスサービスステーション（裏面参照）にお問い合わせください（保証期間外の修理は有料となります）。**

# 各部の名前を確認しましょう

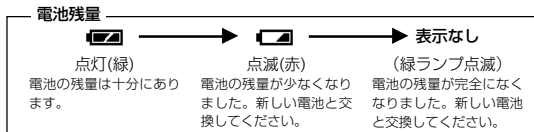
再生モードのON/OFFを行います。

## ●撮影モード画面

| | 項目 | 表示例 | 参照頁 |
|---|---|---|---|
| ① | 電池残量 | | P.16 |
| ② | 露出補正 | +1.5、+2.0、−1.5、−2.0 | P.41 |
| ③ | フラッシュ | | P.31 |
| ④ | ドライブ | | P.36, 39, 61 |
| ⑤ | 測光 | | P.43 |
| ⑥ | ホワイトバランス | | P.44 |
| ⑦ | メモリゲージ | | P.15 |
| ⑧ | 内蔵メモリ | | P.15 |
| ⑨ | 撮影可能枚数／秒数 | 12（枚数)、12"（秒数） | − |
| ⑩ | デジタルテレ | 1.6x、2.0x、3.2x、4.0x | P.38 |
| ⑪ | 画質 | SHQ、HQ、SQ1、SQ2 | P.46 |

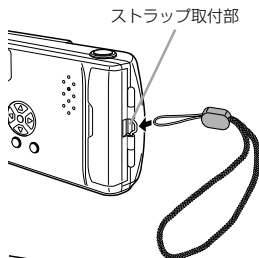
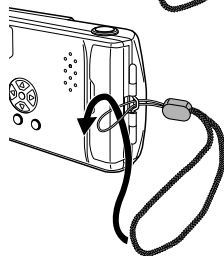
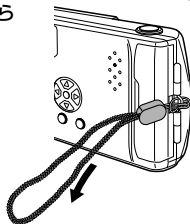
メモ

- マークは、カメラの内蔵メモリを使用しているときに表示されます。カードを挿入しているときは表示されません。
- メモリゲージは撮影しているとき、保存しているときの変化を表しています。

準備

# ●再生モード画面

| | 項目 | 表示例 | 参照頁 |
|---|---|---|---|
| ① | 電池残量 | | P.16 |
| ② | プロテクト | | P.57 |
| ③ | 動画／プリント予約 | | P.61, 73 |
| ④ | 画質 | SHQ、HQ、SQ1、SQ2 | P.46 |
| ⑤ | 露出補正 | +1.5、+2.0、−1.5、−2.0 | P.41 |
| ⑥ | ホワイトバランス | | P.44 |
| ⑦ | ファイルナンバー | 100-0012 | − |
| ⑧ | 日時表示 | '01. 01. 01 12:00 | P.25 |
| ⑨ | コマナンバー／撮影時間 | 12（枚数）、12"（秒数） | − |
| ⑩ | 内蔵メモリ | | P.15 |

メモ

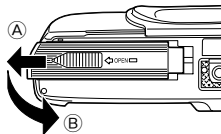
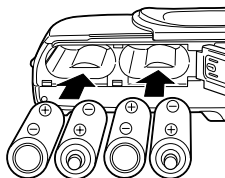
**再生画像の詳細情報の表示については、「液晶モニタに画像情報を表示するには（☞P.68）」を参照してください。**

# ストラップをつけましょう

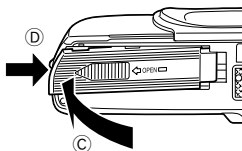
*1* ストラップ取付部にストラップの短い方を通します。

*2* ストラップの長い方を輪にくぐらせます。

*3* 少し強めに引っ張り、取り付けられたことを確認してください。

上記にしたがって正しく取り付けてください。万一、誤った取り付けによりストラップが外れてカメラを落とした場合、損害など一切の責任は当社では負いかねますのでご了承ください。

準備

# 電池を入れましょう

*1* 以下のことを確認してください。
・レンズバリアが閉じていること
・液晶モニタが消灯していること
・緑ランプが消灯していること

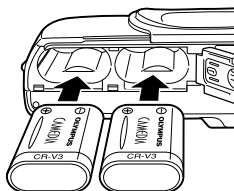
*2* 電池カバーをⒶの方向にずらし、Ⓑの方向に引き上げます。

*3* 図のように電池の向きを正しく合わせて入れます。

*4* 電池カバーを Ⓒ の方向に引き下げ、マークをしっかり押しながら Ⓓ の方向に押し込みます。

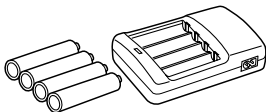
メモ

・電池カバーが閉まりにくいときは無理に押さず、電池カバーの刻印の「OPEN」と「マーク」の部分を両手の親指でしっかり押しながら閉めてください。
・電池を外して約1時間放置すると、すべての設定は初期の状態に戻ります。
・液晶モニタ使用時、電池残量が少なくなると、電池マークが赤で表示されます。さらに電池がなくなると液晶モニタが消灯し、緑ランプが点滅します。

準備

# 電池を上手に選ぶには

## ●リチウム電池パック

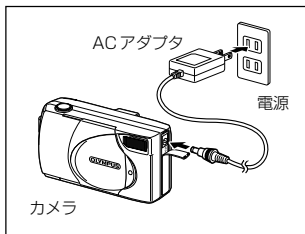
当社製リチウム電池パック(LB-01)は寿命が長く、旅行などにも便利です。(リチウム電池パックは充電できません。)

## ●充電式電池

当社製ニッケル水素電池(充電器セットBU-40SNH)は、撮影後に充電すると繰り返し使用できるので経済的です。また、低温にも強く、寒い地域でも有効です。

## ●アルカリ電池

旅行先などで電池が消耗しても、どこでも入手しやすい単3アルカリ電池がご使用いただけます。(銘柄や使用条件によって撮影可能枚数が大きく変わります。ご使用の際は液晶モニタをこまめにお切りください。)

**マンガン電池は使用できません。**

# AC アダプタを使うには（別売）

別売の専用ACアダプタC-7AC（6V用）で、家庭用電源（AC100V）から電源を取ることができます。

- カメラをパソコン等に長時間接続する場合、電池を用いると途中で消耗して、画像データにトラブルが生じることがあります。ACアダプタのご使用をおすすめします。
- カメラの電源が入っている時にACアダプタを抜き差ししないでください。カメラに設定されている設定値にトラブルが生じる場合があります。
- 緑ランプが点滅中にACアダプタの抜き差しは絶対に行わないでください。
- 本書の「安全にお使いいただくために（☞P.7）」を必ずお読みください。

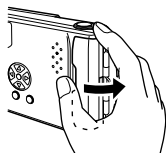
準備

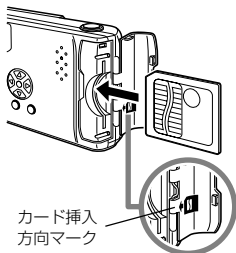
# カード（スマートメディア）を使うには（別売）

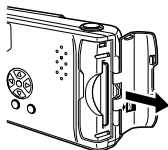
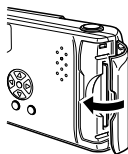
旅行などで枚数をたくさん撮影するときは、カードを使用すると便利です。カード挿入時は、カードで撮影・再生ができます。カードを抜くと、カメラの内蔵メモリで撮影・再生ができます。

***1*** **以下のことを確認してください。**

・レンズバリアが閉じていること
・液晶モニタが消灯していること
・緑ランプが消灯していること

***2*** **カードカバーを開けます。**

***3*** **カードを図の方向につきあたるまで差し込みます。**

カードカバーの内側にカード挿入方向のマークがあります。

カードを抜くときは、カードを指先でもって矢印の方向に引き抜きます。

準備

**4** カードカバーをカチッという音がするまで閉じます。

オリンパス製・Lexar 製以外の市販のカードや、パソコンなど他の機器でフォーマット(初期化)したカードは、このカメラでは認識されないことがありますので、ご使用になる前にあらかじめこのカメラでフォーマット(初期化)してください。「カード／メモリを初期状態に戻すには(☞P.70)」

注意

- カメラの電源が入っているときは絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したりしないでください。カード内のデータが破壊されることがあり、データの復旧はできません。
- カードは精密機器です。無理な力や衝撃を与えないでください。カードの金色の金属部分には直接手を触れないでください。
- カードにライトプロテクトシールが貼ってある場合、操作できない機能があります。操作する場合は、このシールをはがしてください。

## **撮影可能枚数**（おおよその枚数です）

| カードの記憶容量＼画質 | SHQ | HQ | SQ1 | SQ2 |
|---|---|---|---|---|
| 内蔵メモリ | 約 1 枚 | 3 | 4 | 7 |
| 4 MB | 6 | 12 | 16 | 29 |
| 8 MB | 12 | 24 | 33 | 58 |
| 16 MB | 25 | 49 | 66 | 110 |
| 32 MB | 51 | 99 | 132 | 221 |
| 64 MB | 102 | 199 | 265 | 442 |
| 128 MB | 204 | 399 | 532 | 887 |

# 電源の ON/OFF

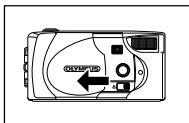
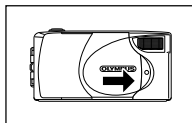
## ●撮影するとき

**電源 ON… レンズバリアを開けます。**

撮影モードで電源が入ります。

**電源 OFF… レンズバリアを閉じます。**

電源が切れます。

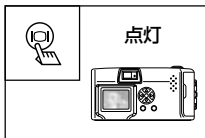
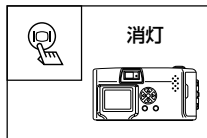
メモ

- カードが入っていないときにレンズバリアを開けると、液晶モニタに「カードを認識できません」と表示が出ますが、故障ではありません。カメラの内蔵メモリで撮影ができます。
- 3分間なにも操作しないと節電状態になります。撮影を再開するには、電源を ON にしてください。

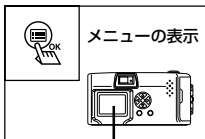
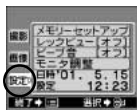
## ●再生するとき

**電源 ON… レンズバリアが閉じた状態で(◎)ボタンを押します。**

再生モードで電源が入ります。（液晶モニタが点灯します。）

**電源 OFF… (◎)ボタンを押します。**

電源が切れます。（液晶モニタが消灯します。）

3分間なにも操作しないと節電状態になります。再生を再開するには、電源を ON にしてください。

# メニューのしくみ

メニュー項目は◎ボタンを押して選択します。

・選択している項目の色が変わり、項目ごとに◁▷マークが出ますので、マークの方向に合わせて◁▷ボタンを押すことができます。
・メニューの下に押すことのできるボタンが表示されます。

メモ

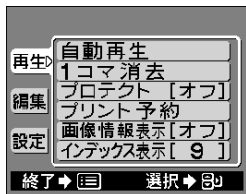
・撮影時と再生時では、メニューの表示が一部異なります。
・現在の設定はメニューの中の［　］内に表示されます。
・設定のしかたやカードの有無によって、選択できない項目がありますが、故障ではありません。
・メニューを表示中にシャッターボタンを押すと、そのときに表示（選択）されている設定状態で撮影することができます。

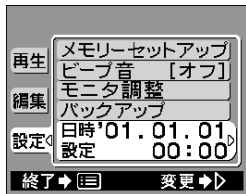
# 日時・時刻を設定しましょう

***1*** ボタンを押します。

液晶モニタが点灯します。

***2*** ボタンを押します。

再生メニューが表示されます。

***3*** またはボタンを押して［設定］を選択し、ボタンを押します。

***4*** またはボタンを押して[日時設定］を選択し、ボタンを押します。

***5*** またはボタンを押して日付の順序を、Y-M-D(年月日)、M-D-Y(月日年)、D-M-Y(日月年)から選択し、ボタンを押します。

日付入力に変わります。

準備

**6** **▽または△ボタンを押して最初の項目を入力し、▷ボタンで次の項にすすみます。**

次の項目に移動します。

**7** **同様の操作を繰り返し、時刻まで入力します。**



**8** **時報の0秒に合わせて(≡)ボタンを押します。**

日時が設定されます。

**9** **(□)ボタンを押します。**

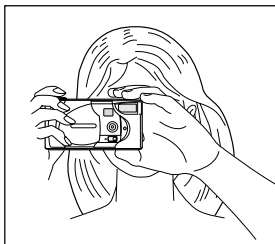
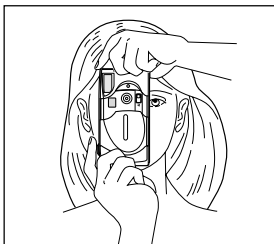
液晶モニタが消灯します。

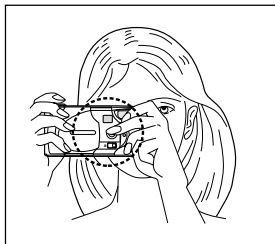
**電池を抜いて放置したり電池が消耗していると、日時の設定が消えたり遅れたりします。大切なものを撮る前には、日時の設定が正しいことを確認してください。**

**撮影モード、再生モードのどちらからも同じ手順で設定することができます。**

# カメラの正しい構え方を練習しましょう

両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。
たて位置の時は、フラッシュが上になるようにカメラを持って、静かにシャッターボタンを押します。

**横位置**

**たて位置**

**悪い例**

レンズとフラッシュに指やストラップがかからないよう、ご注意ください。

メモ

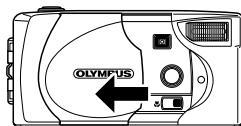
**シャッターを押し込んだ時にカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。正しく構えて、静かにシャッターボタンを押しましょう。**

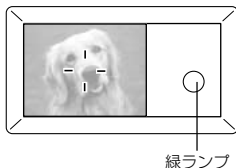
# 撮影しましょう

撮影すると画像はカメラの内蔵メモリに保存されます。別売のカードを挿入しているときは、カードに保存されます。

## ●ファインダを見て撮りましょう

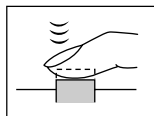
***1*** **レンズバリアを開けます。**

カチッと音がするまでスライドさせてください。

***2*** **ファインダ内のターゲットマークに撮りたいものを合わせます。**

60cm 以内の距離で撮影するときは「近くのものを撮りましょう(☞P.35)」を参照してください。

***3*** **シャッターボタンを軽く押します。**

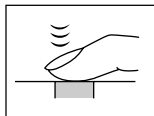
(この状態を半押しといいます。)

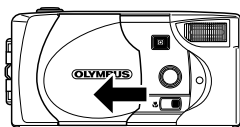
ファインダ横の緑ランプが点灯します。

シャッターボタンを半押ししている間、露出が固定されます。

***4*** **半押しの状態から、さらにシャッターボタンを押し込みます。**

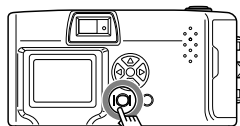
(この状態を全押しといいます。)

撮影されます。

撮影

## ●液晶モニタを見て撮りましょう

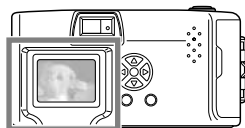
**1** **レンズバリアを開けます。**

**2** **(◎)ボタンを押します。**

液晶モニタが点灯します。

再度(◎)ボタンを押すと、液晶モニタが消灯します。

**3** **液晶モニタを見ながら構図を決めます。**

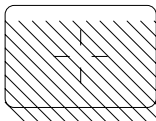
**4** **ファインダを使った撮影と同じ手順で撮影します。**

「●ファインダを見て撮りましょう(☞P.28)」

メモ

・ シャッターボタンを半押しして緑ランプが点滅しているときは、ストロボ充電中です。撮影後に緑ランプが点滅しているときは、画像を保存中です。点滅が終わるまで、約2～40秒お待ちください。
・ メモリゲージがいっぱいになると撮影できません。数秒待って、メモリゲージが消灯してから撮影してください。
・ 晴天下のように明るい場所で撮影したとき、わずかに縦スジが入る場合がありますが、故障ではありません。
・ 液晶モニタは構図を確認するものです。手ぶれやピント、正確な露出については、パソコン画面で確認してください。
・ 液晶モニタを使って撮影した場合、画像を保存する時間が長くなります。

・ シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すとカメラが動き、写真がぶれる原因になります。
・ 緑ランプの点滅中は、絶対に電池やACアダプタを抜かないでください。また、カードカバーを開けないでください。撮影した画像が保存されないだけでなく、撮影済みの画像が破壊される恐れがあります。

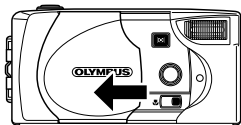
## ●ファインダと液晶モニタを使い分けましょう

| | ファインダ | 液晶モニタ |
|---|---|---|
| こんな撮影に | スナップや風景写真など、気軽に次々と撮影したいとき（約 60cm ～遠距離） | 人物や花のアップなど近くを撮るとき（約25cm ～ 60cm） |
| 長所 | ·カメラがぶれにくい<br>·周囲が明るくても撮りたいものがはっきりと見える<br>·電池の消耗が少ない | 実際に撮影する範囲を正しく確認できる |
| 短所 | 近くのものを撮影するとファインダで見える範囲と撮影画像にズレが生じる | ·手ぶれが起こりやすい<br>·周囲が明るいときや暗い場合、見えにくい<br>·電池の消耗が早い |

・ ファインダで見える範囲より、実際にはやや広い範囲が撮影されます。
・ 撮るものの距離が近いとき、図のように実際に撮影される範囲（斜線部）とファインダで見ている範囲との間にズレが生じます。

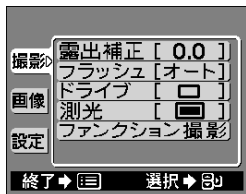
# フラッシュを使いましょう

このカメラのフラッシュは、暗いところや強い逆光の場合には自動的に発光(オート)しますが、状況に応じて発光のしかたを変更することもできます。

***1*** **レンズバリアを開けます。**

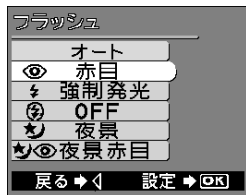
撮影モードで電源が入ります。

***2*** **ボタンを押します。**

撮影メニューが表示されます。

***3*** **またはボタンを押して[撮影]を選択し、ボタンを押します。**

***4*** **またはボタンを押して[フラッシュ]を選択し、ボタンを押します。**

***5*** **またはボタンを押して[オート][赤目][強制発光][OFF][夜景][夜景赤目]から選択します。**

それぞれの機能については「フラッシュを上手に使うには(☞P.33)」を参照してください。

撮影

**6** ボタンを押します。

フラッシュモードが設定されます。
もう一度ボタンを押すとメニューが終了します。

**7** 撮影します。

メモ

- レンズバリアが開いた状態でボタンを押すと、現在のフラッシュモードが確認できます。さらにボタンを押すとフラッシュモードが変わります。

- フラッシュの光が届く範囲は、約2.5 mまでです。
- レンズバリアを閉じるとオート（初期設定）に戻ります。赤目（）のみ、レンズバリアを閉じても設定は保持されます。

注意

- 緑ランプが点滅しているときは、フラッシュ充電中のためシャッターが切れません。緑ランプが消灯するまでお待ちください。
- 近い距離でフラッシュ撮影すると影が目立ったり適正な明るさにならないことがあります。
- 連写・パノラマ・動画撮影ではご使用になれません。

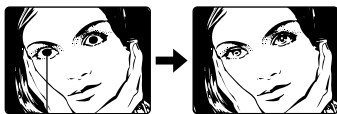
# フラッシュを上手に使うには

撮影状況・目的に合わせてフラッシュモードをお選びください。

## ●オート(表示なし)

暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。
逆光で撮影するときは、撮りたいものにターゲットマークを合わせて撮影してください。

## ●赤目(◎)

人物を撮影すると目が赤く写ることがありますが､｢赤目｣に設定するとこの現象が軽減されます。本発光の前に数回予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。

目が赤く写ります

- 予備発光のため、シャッターが切れるまで約2秒かかります。カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。
- フラッシュを正面から見ていない場合、予備発光を見ていない場合、距離が遠い場合などや個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

## ●強制発光(⚡)

フラッシュを必ず発光させます。陰などで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときに使用します。

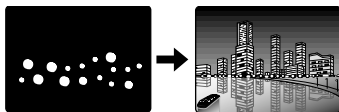
非常に明るい状況下では、効果があらわれにくくなることがあります。

撮影

## ● OFF(⚡︎)

暗いところでもフラッシュは発光しません。フラッシュが使えない場所での撮影に使います。

## ●夜景(★)

夜景を撮影するときに使います。
シャッター速度を遅くして周囲の状況を捉え、最初にフラッシュを発光させる撮影方法です。

## ●夜景赤目(★◎)

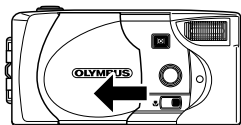
夜景をバックに人物を撮影するときに使います。
シャッター速度を遅くして周囲の状況を捉え、最初にフラッシュを発光させる撮影方法に加え、予備発光を行なって赤目を軽減します。

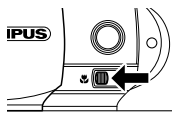
**フラッシュモードがOFF（⚡︎）、夜景（★）、夜景赤目（★◎）のときは、カメラのぶれを防ぐため、三脚のご使用をおすすめします。暗い場所では手ぶれ警告として緑ランプが点滅しますが、撮影できます。また、動いているものを撮るとぶれて写ります。**

# 近くのものを撮りましょう（マクロ）

25～60cmの距離で撮影するときに使います。また、60cm以上の距離でも撮影できます。周囲が明るい場所（晴天の雪山など）での撮影に効果的です。

**1** **レンズバリアを開けます。**

撮影モードで電源が入ります。

**2** **マクロレバーを🌷マークの方向にスライドさせます。**

マクロをやめるときは、マクロレバーを元の位置に戻します。

**3** **(◎)ボタンを押します。**

液晶モニタが点灯します。

**4** **液晶モニタを見ながら撮影します。**

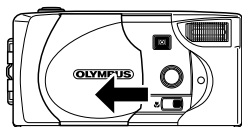
レンズバリアを閉じるとマクロが解除されます。

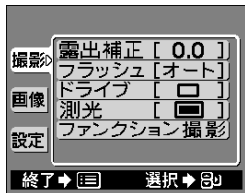
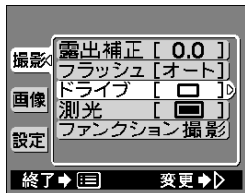
注意

- マクロレバーはしっかりとスライドさせてください。
- マクロ撮影時は、25cm以上の距離を保ってください。
- 25cm以下に近づくと、シャッターは切れますが、ピントは合いません。
- フラッシュ使用時は影が目立ったり適正な明るさにならないことがあります。

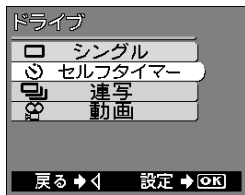
# セルフタイマーを使って撮るには

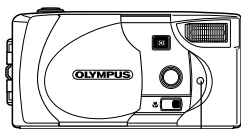
セルフタイマーを使って撮影ができます。カメラを三脚にしっかりと固定してから撮影してください。

**1** **レンズバリアを開けます。**
撮影モードで電源が入ります。

**2** **ボタンを押します。**
撮影メニューが表示されます。

**3** **またはボタンを押して[撮影]を選択し、ボタンを押します。**

**4** **またはボタンを押して[ドライブ]を選択し、ボタンを押します。**

**5** **またはボタンを押して[セルフタイマー]を選択し、ボタンを押します。**
セルフタイマーが設定されます。
もう一度ボタンを押すとメニューが終了します。

ドライブ
シングル
セルフタイマー
連写
動画
戻る
設定 OK

撮影

## *6* 撮影します。

セルフタイマーランプが10秒点灯し、2秒間点滅した後撮影されます。

セルフタイマーランプ

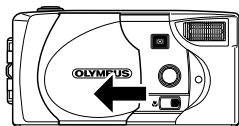
メモ

- 1枚撮影後、セルフタイマーは自動的に解除されます。
- シャッターボタンを押した後に撮影を中止したいときは、レンズバリアを閉じてください。

# 拡大して撮るには（デジタルテレ）

1.6 倍、2 倍、3.2 倍、4 倍と段階的にデジタル望遠撮影ができます。
3.2 倍と 4 倍の望遠撮影は、画質モードが「SQ2」のときのみ設定可能です。「画像のクォリティとサイズを変えるには（☞P.46）」

***1*** **レンズバリアを開けます。**

撮影モードで電源が入ります。

***2*** **△ボタンを押します。**

液晶モニタが自動的に点灯します。

***3*** **液晶モニタを見ながら▽または△ボタンを押します。**

△ボタンを押すたびに[1.6x]→[2.0x]→[3.2x]→[4.0x]と変わります。

▽ボタンを押すたびに[3.2x]→[2.0x]→[1.6x]→表示なし(1.0)と変わります。

***4*** **液晶モニタを見ながら撮影します。**

メモ

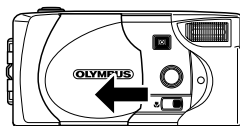
- (◎) ボタンを押すと液晶モニタが OFF になり、デジタルテレが解除されます。
- デジタルテレで撮影すると、画像が粗くなることがあります。

撮影

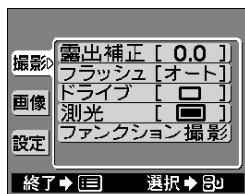
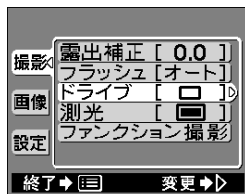
# 連続して撮るには（連写）

シャッターボタンを押している間、8 枚以上（HQ 時）の静止画を連続して撮影する機能です。連続した画像の中から好みの画像を選べるため、動いているものの撮影におすすめです。連写した中から特定のコマ以外のものは、消去することもできます。「不要な画像を消去しましょう（☞P.55）」

***1*** **レンズバリアを開けます。**

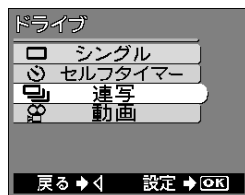
撮影モードで電源が入ります。

***2*** **(☰)OK ボタンを押します。**

撮影メニューが表示されます。

***3*** **▽または△ボタンを押して[撮影]を選択し、▷ボタンを押します。**

***4*** **▽または△ボタンを押して[ドライブ]を選択し、▷ボタンを押します。**

***5*** **▽または△ボタンを押して[連写]を選択し、(☰)OK ボタンを押します。**

連写が設定されます。

もう一度(☰)OK ボタンを押すとメニューが終了します。

撮影

**6** 撮影します。（シャッターボタンを押している間、連写ができます。シャッターボタンから指を離すと連写が止まります。）

メモ

- レンズバリアを閉じると連写が解除されます。
- フラッシュは使用できません。
- 手ぶれを押さえるため、シャッター速度は最長 1/30 秒に設定されています。そのため暗い被写体は通常より暗く写る場合があります。
- 連写後は、画像の保存にしばらく時間がかかります。
- 連写可能な枚数は､画質モードやカード使用の有無などにより変わってきます。たくさん撮りたい場合はカードの使用をおすすめします。

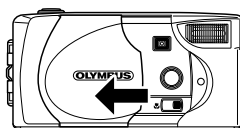
# 画像の明るさを変えるには（露出補正）

露出は撮影時に自動的に決まりますが、撮りたいものにあわせて0.5段刻みで±２まで補正できます。

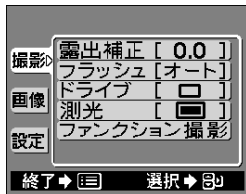
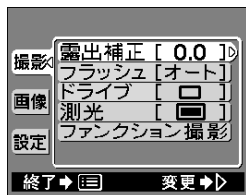
メモ

- 撮りたいものと背景のコントラスト(明暗の差)が非常に大きい場合などに使用すると、適正な明るさ(露出)が得られます。
- 白いものを白く写したいときは[＋]の補正、黒いものを黒く写したいときは[−]の補正をすると効果的です。

***1*** **レンズバリアを開けます。**

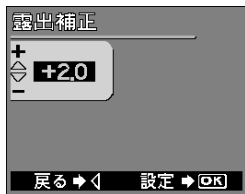
撮影モードで電源が入ります。

***2*** **ボタンを押します。**

撮影メニューが表示されます。

***3*** **またはボタンを押して[撮影]を選択し、ボタンを押します。**

***4*** **またはボタンを押して[露出補正]を選択し、ボタンを押します。**

**5** **▽または△ボタンを押して補正値を選択し、OKボタンを押します。**

プラス[+]で明るく、マイナス[−]で暗くなります。

露出補正値が設定されます。

もう一度OKボタンを押すとメニューが終了します。

**6** **撮影します。**

- レンズバリアを閉じると、露出補正が0.0(初期値)に戻ります。
- 露出補正すると、液晶モニタに表示されている画像の明るさも変わります。撮るものが暗いときは変化がわかりにくい場合があるので、そのときは撮影した画像を再生してご確認ください。

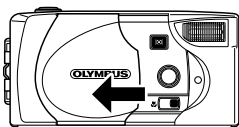
注意

- フラッシュを使用すると意図した明るさ(露出)で撮影できないことがあります。
- 撮るものの周囲が極端に明るいときや極端に暗いときは、露出補正では補正できないことがあります。

# 撮りたいものが明るすぎる／暗すぎるときには（スポット測光）

逆光のときは、通常の測光の設定値（デジタルESP測光）では撮りたいものが暗くなります。この場合、スポット測光に変更すると、背景の光に影響されることなく、ファインダ中央部の明るさに合わせて撮影できます。

**1** **レンズバリアを開けます。**

撮影モードで電源が入ります。

**2** **ボタンを押します。**

撮影メニューが表示されます。

**3** **または ボタンを押して[撮影]を選択し、ボタンを押します。**

**4** **または ボタンを押して[測光]を選択し、ボタンを押します。**

**5** **または ボタンを押して[スポット測光]を選択し、ボタンを押します。**

スポット測光が設定されます。

もう一度 ボタンを押すとメニューが終了します。

**6** **撮影します。**

**レンズバリアを閉じるとESP(初期設定)に戻ります。**

撮影

# その場の状況に合わせて撮るには（ホワイトバランス）

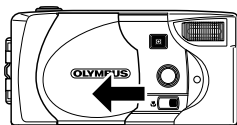
自然な色合いで写るよう自動的に調節する「オートホワイトバランス」を採用していますが、天候や照明などにより思い通りの色に仕上がらないときは、ホワイトバランスを設定してください。

メモ

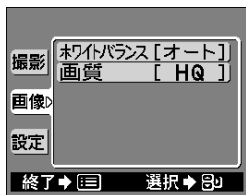
**ホワイトバランスの設定**

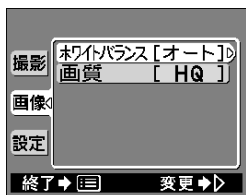
| | |
|---|---|
| **オート** | 液晶モニタに表示はありません。<br>自然な色合いで写るよう自動的に調整します。 |
| **晴天**(☀) | 晴れた屋外で自然な色に写ります。 |
| **曇天**(☁) | 曇った屋外で自然な色に写ります。 |
| **電球**(💡) | 電球の灯りで自然な色に写ります。 |
| **蛍光灯**(蛍光灯マーク) | 蛍光灯の灯りで自然な色に写ります。 |

***1*** **レンズバリアを開けます。**

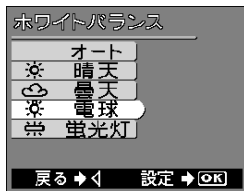
撮影モードで電源が入ります。

***2*** **(OK)ボタンを押します。**

撮影メニューが表示されます。

***3*** **▽または△ボタンを押して[画像]を選択し、▷ボタンを押します。**

***4*** **▽または△ボタンを押して[ホワイトバランス]を選択し、▷ボタンを押します。**

撮影

**5** **▽または△ボタンを押して[オート][晴天][曇天][電球][蛍光灯]から選択し、OKボタンを押します。**

ホワイトバランスが設定されます。

もう一度OKボタンを押すとメニューが終了します。

**6** **撮影します。**

- レンズバリアを閉じると、ホワイトバランスがオート（初期設定）に戻ります。
- 自然な色に仕上がりにくいのは、人工的な照明と自然光が混じっているときや蛍光灯照明のときなどです。
- 電球の下で見たままに近い雰囲気で撮りたいときなどは、「晴天」に設定すると効果的です。

注意

- 特殊な光源下では、ホワイトバランスが思ったとおりに機能しない場合があります。
- 設定値が最適かどうか、撮影後必ず液晶モニタで画像を再生して色を確認してください。

# 画像のクォリティとサイズを変えるには（画質）

撮影する画像の画質を選択します。

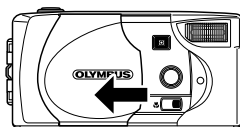
メモ

**画質の設定**

| | |
|---|---|
| **SHQ**<br>(スーパーハイクォリティ) | きれいにプリントしたいとき、大きくプリントしたいとき、パソコンで画像を加工したいとき<br>（1280 × 960 ピクセル※） |
| **HQ**<br>(ハイクォリティ) | パソコンで画像を見るときやプリントするとき<br>（1280 × 960 ピクセル※） |
| **SQ**<br>(スタンダードクォリティ) | E メールに添付するときや枚数をたくさん撮りたいとき<br>SQ1（1024 × 768 ピクセル※）<br>SQ2（640 × 480 ピクセル※） |

※ピクセルとは、画像の大きさを表す単位

***1*** **レンズバリアを開けます。**

撮影モードで電源が入ります。

***2*** **ボタンを押します。**

撮影メニューが表示されます。

***3*** **またはボタンを押して[画像]を選択し、ボタンを押します。**

***4*** **またはボタンを押して[画質]を選択し、ボタンを押します。**

撮影

**5** **◎または◎ボタンを押して[SHQ][HQ][SQ1][SQ2]から選択し、◎ボタンを押します。**

画質が設定されます。
もう一度◎ボタンを押すとメニューが終了します。

**6** **撮影します。**

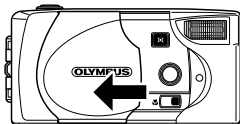
メモ

- レンズバリアを閉じても画質モードは変わりません。
- 画質の設定により撮影可能枚数が変わります。
- HQとSHQの画素数は同じですが、SHQの方が圧縮率が低いため、引き伸ばしたときの画像がきれいです。また、SHQは保存・再生の時間が長くなります。
- 撮影可能枚数が少ないときに高画質に変更すると、メモリまたはカードの警告マークが表示されることがあります。この場合は、メモリまたはカードの容量がたりません。別の画質を選択してください。

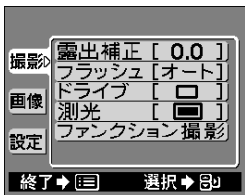
# パノラマ撮影をするには

オリンパスの標準カード(スマートメディア)にはパノラマモードが付いているので、パノラマ撮影が楽しめます。何枚かの画像をCAMEDIA Master(別売ソフト) でつなぎ合わせ、1 枚のパノラマ合成画像を作成します。
必ずカードを入れてから操作してください。

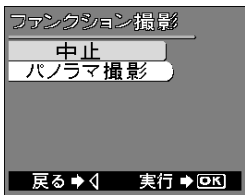
**1 レンズバリアを開けます。**

撮影モードで電源が入ります。

**2 ボタンを押します。**

撮影メニューが表示されます。

**3 またはボタンを押して[撮影]を選択し、ボタンを押します。**

**4 またはボタンを押して[ファンクション撮影]を選択し、ボタンを押します。**

**5 またはボタンを押して[パノラマ撮影] を選択し、ボタンを押します。**

パノラマが設定されます。
液晶モニタが自動的に点灯します。

**6** **十字ボタンでつなげる方向を指定します。**

(▷) :次の画像を右につなげます。
(◁) :次の画像を左につなげます。
(△) :次の画像を上につなげます。
(▽) :次の画像を下につなげます。

**7** **被写体の端が重なるように撮影します。**

最大 10 枚までパノラマ撮影が可能です。

 ➜  ➜ 

**8** **終了するには(☰)OK ボタンを押してください。**

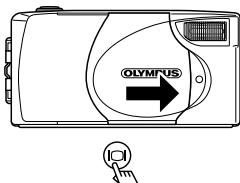
レンズバリアを閉じるとパノラマが解除されます。

注意

- 標準カードを使用しないとパノラマ撮影はできません。また、標準カード以外のカードでは、パノラマ撮影は設定できません。
- パノラマ合成はカメラ本体ではできません。別売のソフトが必要です。
- 露出・ホワイトバランスなど 1 枚目で決定されます。1 枚目に太陽を入れた撮影などしないでください。
- HQ/SHQモードで多量のパノラマ撮影をするとパソコンのメモリ不足になることがありますので、SQ モードでの撮影をおすすめします。
- パノラマモードではフラッシュはご使用になれません。

# 撮った画像を確認しましょう（1 コマ再生）

液晶モニタに 1 コマずつ、画像を再生します。
カードを挿入しているときは、カードの画像が再生されます。内蔵メモリの画像を再生するときはカードを抜いてください。

***1*** **レンズバリアを閉じた状態で(◎) ボタンを押します。**

液晶モニタが点灯し、最後に撮影した画像が表示されます。

***2*** **(◁)または(▷)ボタンを押します。**

(◁)ボタンで1コマ前を表示します。(▷)ボタンで次のコマを表示します。

***3*** **再生をやめるときは、(◎)ボタンを押します。**

液晶モニタが消灯して電源が切れます。

メモ

- **撮影モードで(◎)ボタンを２回すばやく押す（ダブルクリック）と再生モードに入ります。**
- **電源を入れた後に液晶モニタが一瞬光り、しばらくしてから画像が表示されることがありますが、故障ではありません。**

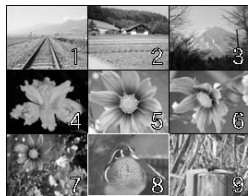
# 複数コマずつ画像を表示するには（インデックス再生）

1 コマ再生の状態からインデックス表示します。

**1** **レンズバリアを閉じて(□)ボタンを押します。**

液晶モニタが点灯します。

**2** **(▽)ボタンを押します。**

**3** **(▷)ボタンを押すと緑の枠が次のコマに移動し、(◁)ボタンを押すと前のコマに移動します。**

**4** **(△)ボタンを押します。**

1 コマ再生に戻ります。

## ●インデックス再生のコマ数を変更するには

インデックス再生のコマ数を４コマ、９コマ、16コマの中から選択します。

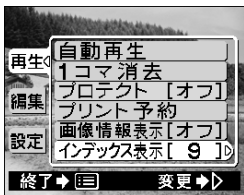
**1** **レンズバリアを閉じてボタンを押します。**

液晶モニタが点灯します。

**2** **ボタンを押します。**

再生メニューが表示されます。

**3** **▽または△ボタンを押して[再生]を選択し、▷ボタンを押します。**

**4** **▽または△ボタンを押して[インデックス表示]を選択し、▷ボタンを押します。**

**5** **▽または△ボタンを押して[4] [9] [16] から選択し、ボタンを押します。**

インデックス再生のコマ数が設定されます。

もう一度ボタンを押すと、メニューが終了します。

# すべての画像を表示するには（自動再生）

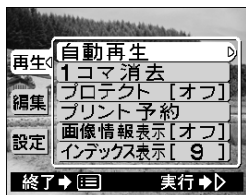
***1*** **レンズバリアを閉じて(◎)ボタンを押します。**

液晶モニタが点灯します。

***2*** **(▤)ボタンを押します。**

再生メニューが表示されます。

***3*** **▽または△ボタンを押して[再生]を選択し、▷ボタンを押します。**

***4*** **▽または△ボタンを押して[自動再生]を選択し、▷ボタンを押します。**

***5*** **▽または△ボタンで「スタート」を選択し、(▤)ボタンを押します。**

自動再生がスタートします。現在表示中の次のコマから3秒間ずつ表示します。

自動再生をを中止するときは(▤)ボタンを押します。

動画（🎥）マークのついている画像を表示中に、再生メニューを表示すると、[自動再生] が選択できません。静止画を表示させてから操作してください。

再生

# 画像を拡大して表示するには（拡大再生）

1 コマ再生の状態から 1.5 倍、2 倍、2.5 倍、3 倍と段階的に拡大表示します。撮った画像の細かい部分を確認したい時に便利です。

**1** **レンズバリアを閉じて◎ボタンを押します。**

液晶モニタが点灯します。

**2** **△ボタンを押します。**

△ボタンを押すたびに 1.5 倍、2 倍、2.5 倍、3 倍と拡大表示します。

**3** **拡大中に ボタンを押すと、スクロールモードになります。**

△▽◁▷ボタンで前後左右にスクロールさせて、見たい部分を表示します。

もう一度 ボタンを押すと、スクロールモードを終了します。

**4** **スクロールモード終了後に▽ボタンを押すと、1 倍の 1 コマ再生画面に戻ります。**

**動画（ ）マークのついている画像を表示中は、操作できません。静止画を表示させてから操作してください。**

再生

# 不要な画像を消しましょう（1 コマ消去）

*1* **レンズバリアを閉じて(◎)ボタンを押します。**

液晶モニタが点灯します。

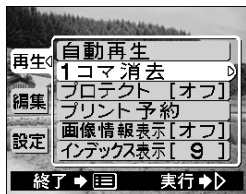
*2* **消去したい画像を表示します。**

「撮った画像を表示しましょう（☞P.50）」

*3* **(≡)ボタンを押します。**

再生メニューが表示されます。

*4* **▽または△ボタンを押して[再生]を選択し、▷ボタンを押します。**

*5* **▽または△ボタンを押して[1 コマ消去]を選択し、▷ボタンを押します。**

*6* **▽または△ボタンで[消去]を選択して(≡)ボタンを押します。**

画像が消去されます。

- この操作は、消去したい画像を表示中に▽ボタンを1秒以上押して、消去の操作メニューにすすむこともできます。
- 消したい画像がプロテクトされている場合、カードにライトプロテクトシールが貼ってある場合は消去できません。プロテクトを解除する、ライトプロテクトシールをはがす、などの操作を行ってから消去してください。
- 消去した画像を元に戻せません。消去する前に、大切なデータを消さないよう十分に注意してください。

再生

# すべての画像を消すには（全コマ消去）

内蔵メモリまたはカードの画像をすべて消去します。

注意
- 内蔵メモリの画像を消す場合は、カードを入れないでください。
- カードの画像を消す場合はあらかじめカードをセットしてください。

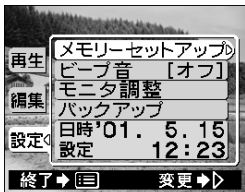
***1*** レンズバリアを閉じて(◎)ボタンを押します。

液晶モニタが点灯します。

***2*** (≡)ボタンを押します。

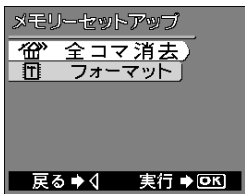
再生メニューが表示されます。

***3*** ▽または△ボタンを押して[設定]を選択し、▷ボタンを押します。

***4*** ▽または△ボタンを押して[メモリーセットアップ]または[カードセットアップ]を選択し、▷ボタンを押します。

（カードを使用していない場合）

***5*** ▽または△ボタンで[全コマ消去]を選択して(≡)ボタンを押します。

***6*** ▽または△ボタンで[消去]を選択して(≡)ボタンを押します。

全コマが消去されます。

（カードを使用していない場合）

注意
- プロテクトされた画像は消去されません。
- カードにライトプロテクトシールが貼ってある場合は操作できません。
- 消去した画像は、元に戻せません。消去する前に、大切なデータを消さないよう十分に注意してください。

# 大切な画像を保護しましょう（プロテクト）

***1*** **レンズバリアを閉じて(再生)ボタンを押します。**

液晶モニタが点灯します。

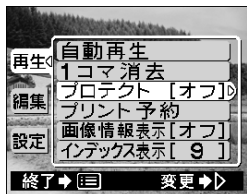
***2*** **保護したい画像を表示します。**

「撮った画像を表示しましょう（☞P.50）」

***3*** **(メニュー/OK) ボタンを押します。**

再生メニューが表示されます。

***4*** **▽または△ボタンを押して[再生]を選択し、▷ボタンを押します。**

***5*** **▽または△ボタンを押して[プロテクト]を選択し、▷ボタンを押します。**

***6*** **▽または△ボタンで[オン]を選択して(メニュー/OK) ボタンを押します。**

プロテクトが設定されます。

プロテクトを解除する場合は[オフ]を選択します。

メモ

・ この操作は、保護したい画像を表示中に△ボタンを1秒以上押して、プロテクトを設定することもできます。

・ 設定された画像には(鍵)マークが表示されます。

・ 電源を OFF にしても、プロテクトの設定は保存されます。

注意

・ プロテクトされた画像は1コマ消去/全コマ消去できませんが、フォーマットを行うとすべて消去されます。

・ ライトプロテクトシールが貼ってあるカードはプロテクト操作できません。

# 画像をモノクロ／セピアにするには

選択した画像をモノクロまたはセピアにし、別の画像として保存します。

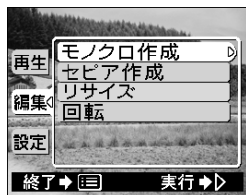
***1*** **レンズバリアを閉じて ボタンを押します。**

液晶モニタが点灯します。

***2*** **モノクロまたはセピアにする画像を液晶モニタに表示してから、 ボタンを押します。**

再生メニューが表示されます。

***3*** **または ボタンを押して[編集]を選択し、 ボタンを押します。**

***4*** **または ボタンを押して[モノクロ作成]または[セピア作成]を選択し、 ボタンを押します。**

***5*** **または ボタンを押してモノクロ作成の場合は[モノクロ作成]、セピア作成の場合は[セピア作成]を選択して ボタンを押します。**

画像がモノクロ／セピアで作成されます。

作成されたモノクロ／セピア画像は、元の画像とは別の画像データとして保存されます。

（モノクロ作成の場合）

- 動画はモノクロ／セピアにすることができません。
- ライトプロテクトシールの貼っているカードは操作できません。

# 画像のサイズを変更するには（リサイズ）

選択した画像のサイズを640×480、または320×240に変更して別の画像として保存します。メールに添付して送る場合など、容量を小さくしたいときに設定します。

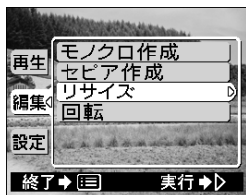
*1* **レンズバリアを閉じてボタンを押します。**

液晶モニタが点灯します。

*2* **サイズを変更する画像を液晶モニタに表示してから、ボタンを押します。**

再生メニューが表示されます。

*3* **またはボタンを押して[編集]を選択し、ボタンを押します。**

*4* **またはボタンを押して[リサイズ]を選択し、ボタンを押します。**

*5* **またはボタンを押して[640×480作成] [320×240作成]から選択し、ボタンを押します。**

サイズが変更されます。

リサイズされた画像は、元の画像とは別の画像データとして保存されます。

- 動画はリサイズできません。
- 選択した画像サイズが 640 × 480 以下の場合は、メニューの [640 × 480 作成]は選択できません。
- 選択した画像サイズが320 × 240の場合は、メニューの [リサイズ]が選択できません。
- ライトプロテクトシールの貼っているカードは操作できません。

# 画像の向きを変更するには（回転）

選択した画像を時計回り、または反時計回りに90度回転して別の画像として保存します。たて位置で撮影した画像を横位置にするときなど設定します。

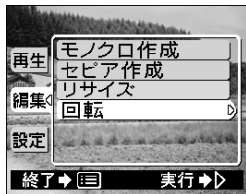
**1** **レンズバリアを閉じて(◎)ボタンを押します。**

液晶モニタが点灯します。

**2** **回転する画像を液晶モニタに表示してから、(≡)ボタンを押します。**

再生メニューが表示されます。

**3** **▽または△ボタンを押して[編集]を選択し、▷ボタンを押します。**

**4** **▽または△ボタンを押して[回転]を選択し、▷ボタンを押します。**

**5** **▽または△ボタンを押して[時計回り] [反時計回り]から選択し、(≡)ボタンを押します。**

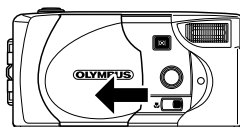
画像が回転します。

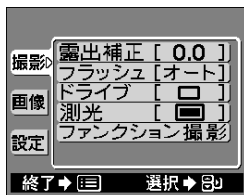
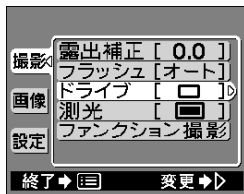
回転された画像は、元の画像とは別の画像データとして保存されます。

- 動画は回転できません。
- ライトプロテクトシールの貼っているカードは操作できません。

## ●動画を撮るには

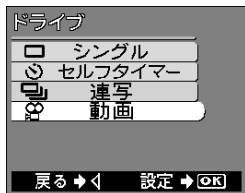
このカメラでは、静止画に加えて動画も撮影できます。

**1** **レンズバリアを開けます。**
撮影モードで電源が入ります。

**2** **ボタンを押します。**
撮影メニューが表示されます。

**3** **またはボタンを押して[撮影]を選択し、ボタンを押します。**

**4** **またはボタンを押して[ドライブ]を選択し、ボタンを押します。**

**5** **▽または△ボタンを押して[動画]を選択し、OKボタンを押します。**

動画が設定されます。

液晶モニタが自動的に点灯します。

もう一度OKボタンを押すとメニューが終了します。

**6** **液晶モニタを見ながら撮影します。(シャッターボタンを押すと動画撮影が行われます。もう一度、シャッターボタンを押すと動画撮影が終了します。)**

液晶モニタに撮影可能時間が表示されます。

撮影可能時間



メモ

- ボタンを押すと液晶モニタがOFFになり、動画が解除されます。
- フラッシュは使用できません。
- 動画撮影後は、画像の保存にしばらく時間がかかります。
- 撮影可能な時間は、カード使用の有無などにより変わります。
- 音声は録音できません。

## ●動画のクォリティとサイズを変えるには（画質）

撮影する画像の画質を HQ または SQ に指定します。

**1** **動画モードを設定後、ボタンを押します。**

撮影メニューが表示されます。

**2** **またはボタンを押して[画像]を選択し、ボタンを押します。**

**3** **またはボタンを押して[画質]を選択し、ボタンを押します。**

**4** **またはボタンを押して[HQ][SQ]から選択し、ボタンを押します。**

画質が設定されます。

もう一度ボタンを押すとメニューが終了します。

**5** **撮影します。**

その他

## ●動画を再生するには

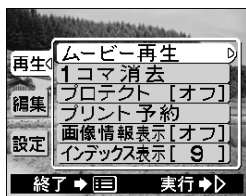
**1** レンズバリアを閉じて(◎)ボタンを押します。

液晶モニタが点灯します。

**2** 再生したい🎥マークの付いた画像を表示し、(▤)ボタンを押します。

再生メニューが表示されます。

**3** ▽または△ボタンを押して[再生]を選択し、▷ボタンを押します。

**4** ▽または△ボタンを押して[ムービー再生]を選択し、▷ボタンを押します。

**5** ▽または△ボタンで[スタート]を選択し、(▤)ボタンを押します。

動画が再生されます。
動画再生を中止するときは(▤)ボタンを押します。

その他

## ●動画再生の一時停止

動画を再生中に十字ボタンのいずれかを押すと、動画が一時停止状態になります。

## ●一時停止中の操作

動画の再生を一時停止中に次のボタン操作が可能です。

| | |
|---|---|
| ▷ボタンを押す | 再生されます。 |
| ▷ボタンを押し続ける | 早送りで再生されます。 |
| ◁ボタンを押す | 逆再生されます。 |
| ◁ボタンを押し続ける | 早送りで逆再生されます。 |
| △ボタンを押す | 動画の先頭の画像が表示されます。 |
| ▽ボタンを押す | 動画の後尾の画像が表示されます。 |

## ●パソコンで動画を再生するには

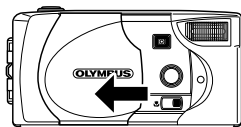
このカメラで撮影した動画(ムービー)をパソコンで再生するには、お使いのパソコンにQuickTimeがインストールされている必要があります。QuickTimeは、当社が販売している画像編集管理ソフトCAMEDIA Master 2.5 (C-90PJ2)に収録されています。インストールの方法については、CD-ROMのインストールガイドをお読みください。
また、QuickTimeはアップルコンピュータ社のホームページから無償でダウンロードして使用することができます。下記のホームページでQuickTimeのページを開いてダウンロードを選択し、案内にしたがってダウンロードしてパソコンにインストールしてください。

アップルコンピュータ社ホームページ：
http://www.apple.co.jp/index.html　または
http://www.apple.co.jp/quicktime/download/index.html

# 撮影後すぐに画像を確認するは（レックビュー）

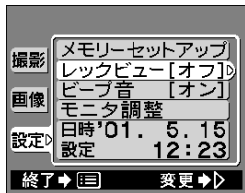
撮影するたびに、撮った画像を液晶モニタに表示させて確認ができます。

***1*** **レンズバリアを開けます。**

撮影モードで電源が入ります。

***2*** **ボタンを押します。**

撮影メニューが表示されます。

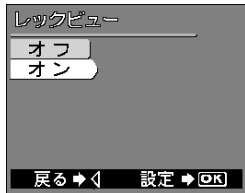
***3*** **または ボタンを押して[設定]を選択し、ボタンを押します。**

***4*** **または ボタンを押して[レックビュー] を選択し、ボタンを押します。**

***5*** **または ボタンを押して[オン]を選択し、ボタンを押します。**

**オン**：撮影後、撮った画像を表示→画像確認へ

**オフ**：撮影後→すぐ次の撮影へ

レックビューが設定されます。

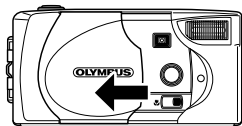
もう一度 ボタンを押すとメニューが終了します。

メモ　**レンズバリアを閉じても、レックビューの設定は保持されます。**

その他

# 警告音を消すには（ビープ音）

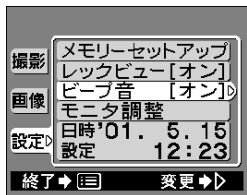
静かな場所で使用するときは、ビープ音を消すことができます。

*1* **レンズバリアを開けます。**

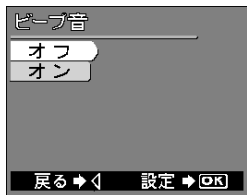
撮影モードで電源が入ります。

*2* **ボタンを押します。**

撮影メニューが表示されます。

*3* **またはボタンを押して[設定]を選択し、ボタンを押します。**

*4* **またはボタンを押して[ビープ音]を選択し、ボタンを押します。**

*5* **またはボタンを押して[オフ]を選択し、ボタンを押します。**

警告音の消音が設定されます。

もう一度ボタンを押すとメニューが終了します。

・レンズバリアを閉じても、消音状態が保持されます。
・再生メニューからも設定することができます。

# 液晶モニタに画像情報を表示するには

再生画像の詳細情報を表示するかどうか設定することができます。オンにすると５秒間だけすべての情報が表示されます。表示項目については「●再生モード画面（☞P.16）」を参照してください。

**画像情報表示がオンの場合**

**画像情報表示がオフの場合**

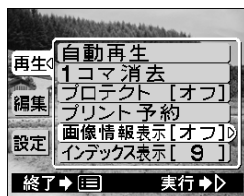
***1*** **レンズバリアを閉じて◎ボタンを押します。**

再生モードで電源が入ります。

***2*** **▤ボタンを押します。**

再生メニューが表示されます。

***3*** **▽または△ボタンを押して[再生]を選択し、▷ボタンを押します。**

***4*** **▽または△ボタンを押して[画像情報表示] を選択し、▷ボタンを押します。**

***5*** **▽または△ボタンを押して[オン]を選択して▤ボタンを押します。**

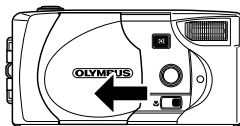
再生モード画面に画像情報が表示されます。

もう一度▤ボタンを押すとメニューが終了します。

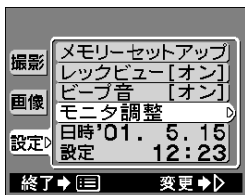
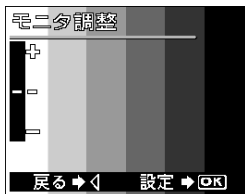
メモ　**電源を OFF にすると、画像情報表示の設定がオフ(初期設定)に戻ります。**

その他

# 液晶モニタの明るさを調整するには

*1* **レンズバリアを開けます。**
撮影モードで電源が入ります。

*2* **ボタンを押します。**
撮影メニューが表示されます。

*3* **または ボタンを押して[設定]を選択し、ボタンを押します。**

*4* **または ボタンを押して[モニタ調整]を選択し、ボタンを押します。**

*5* **または ボタンを押して液晶モニタの明るさを調整し、ボタンを押します。**
プラス[+]で明るく、マイナス[−]で暗くなります。

*6* **ボタンを押します。**
液晶モニタの明るさが設定されます。
もう一度ボタンを押すとメニューが終了します。

メモ
- **レンズバリアを閉じても、液晶モニタの明るさは保持されます。**
- **再生メニューからも設定することができます。**

その他

# カード／メモリを初期状態に戻すには（カードフォーマット/メモリセットアップ）

カードまたは内蔵メモリをフォーマット（初期化）します。フォーマットするとカードまたは内蔵メモリの画像は、すべて消去されます。

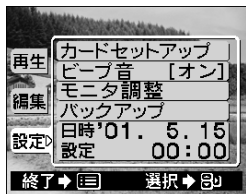
注意
- 内蔵メモリをフォーマットする場合は、カードを入れないでください。
- カードをフォーマットする場合はあらかじめカードをセットしてください。
- オリンパス製以外のカードやパソコンでフォーマットしたカードを使用する場合は、必ずこのカメラで初期化してください。別売のオリンパス製のカードは初期化する必要はありません。

***1*** **レンズバリアを閉じて(◎)ボタンを押します。**

再生モードで電源が入ります。

***2*** **(▤)ボタンを押します。**

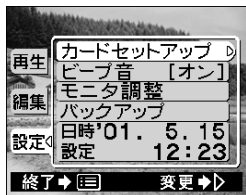
再生メニューが表示されます。

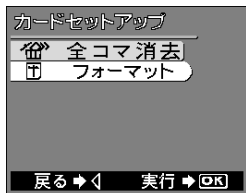
***3*** **▽または△ボタンを押して[設定]を選択し、▷ボタンを押します。**

（カードを初期化する場合）

***4*** **カードをフォーマットする場合は、▽または△ボタンを押して[カードセットアップ]を選択し、▷ボタンを押します。**

**内蔵メモリをフォーマットする場合は、▽または△ボタンを押して「メモリセットアップ」を選択し、▷ボタンを押します。**

（カードを初期化する場合）

その他

**5** ▽または△ボタンで「フォーマット」を選択してOKボタンを押します。

**6** ▽または△ボタンで「フォーマット」を選択してOKボタンを押します。

（カードを初期化する場合）

フォーマットされます。

撮影メニューからも初期化することができます。

注意

- プロテクトされた画像もすべて消去されます。フォーマットしたカードおよびメモリは復元できませんので、十分に注意してください。
- オリンパス製テンプレートカードをフォーマットすると、カードの機能は失われます。詳しくはカードの説明書をお読みください。
- ライトプロテクトシールが貼ってあるカードは、フォーマットできません。シールをはがしてからフォーマットしてください。はがしたシールは再使用しないでください。

その他

# メモリの画像をカードにコピーするには（メモリバックアップ）

内蔵メモリに記録したすべての画像データをカードにコピー(バックアップ)します。この操作にはカード（スマートメディア）が必要です。カードを入れてから操作してください。

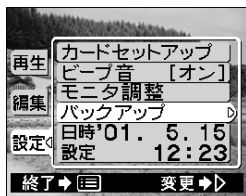
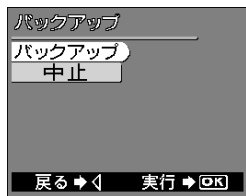
**1** **レンズバリアを閉じて⊡ボタンを押します。**

再生モードで電源が入ります。

**2** **▤ボタンを押します。**

再生メニューが表示されます。

**3** **▽または△ボタンを押して[設定]を選択し、▷ボタンを押します。**

**4** **▽または△ボタンを押して[バックアップ]を選択し、▷ボタンを押します。**

**5** **▽または△ボタンで[バックアップ]を選択して▤ボタンを押します。**

内蔵メモリのすべての画像がカードにコピーされます。

その他

# 画像にプリント予約をするには

カードに撮影した画像に対して印刷希望枚数を予約し、ＤＰＯＦ対応プリンタや写真店でプリントします。予約内容の確認と変更、１コマずつの予約、全コマ一括予約、全コマ一括予約解除のほか、撮影した日時を画像に表示する日時挿入設定が指定できます。
あらかじめカードをセットから設定してください。「カード（スマートメディア）を使うには（☞P.21）」

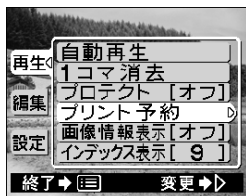
**DPOF を使用せずにプリントサービスを利用される方へ**
写真店などのプリントサービスを利用する場合、プリントする画像は必ずファイルナンバーで指定してください。コマナンバーで指定するとまちがった画像がプリントされることがあります。
ファイルナンバーは画像情報表示をオンにすると表示されます。（☞P.16、68）

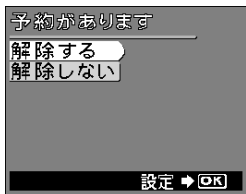
***1*** **レンズバリアを閉じて ボタンを押します。**

再生モードで電源が入ります。

***2*** **ボタンを押します。**
再生メニューが表示されます。

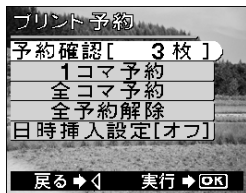
***3*** **または ボタンを押して[再生]を選択し、 ボタンを押します。**

***4*** **または ボタンを押して[プリント予約] を選択し、 ボタンを押します。**

***5*** **または ボタンで予約を解除するかどうか選択して ボタンを押します。**

この画面はすでにプリント予約されている場合に表示されます。［解除する］を選択すると、プリント予約がすべて解除されます。

その他

**6** ▽または△ボタンを押して項目を選択して(≡)OKボタンを押します。

・[予約確認]を選択☞(P.75)
・[1 コマ予約]を選択☞(P.74)
・[全コマ予約]を選択☞(P.74)
・[全予約解除]を選択☞(P.75)
・[日時挿入設定]を選択☞(P.75)

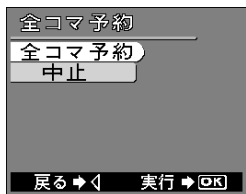
メモ

・[予約確認] [全予約解除] は、プリント予約されているときに選択できます。
・[1 コマ予約] [全コマ予約] をすると、現在の設定で日時が挿入されます。

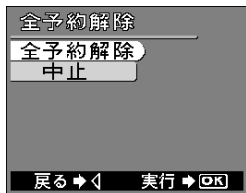
## ●[1コマ予約] を選択したいとき

**7** 予約する画像と枚数を指定します。
◁または▷ボタンを押して画像を選び、▽または△ボタンを押して枚数を1～9に指定します。枚数が0枚のときは、プリント予約されていません。

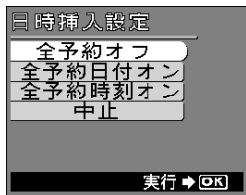
**8** 予約がすべて終了したら(≡)OKボタンを押します。

## ●[全コマ予約] を選択したいとき

**7** ▽または△ボタンで[全コマ予約]を選択して(≡)OKボタンを押します。

## ●［全予約解除］を選択したいとき

*7* ▽または△ボタンで[全予約解除]を選択して OK ボタンを押します。
プリント予約がすべて解除されます。

## ●［日時挿入設定］を選択したいとき

*7* ▽または△ボタンで項目を選択して OK ボタンを押します。
[全予約オフ]:日付／時刻を挿入しない
[全予約日付オン]: 日付を挿入する
[全予約時刻オン]: 時刻を挿入する

プリント予約しているすべての画像にに設定されます。

## ●［予約確認］を選択したいとき

*7* ◁または▷ボタンを押して予約情報を確認できます。
また、▽または△ボタンを押して日付挿入設定の変更と予約の解除ができます。

*8* 確認・変更が終了したら OK ボタンを押します。

その他

# こんな表示がでたら

| 警告 液晶モニタ表示 | エラー内容 | 対応 |
|---|---|---|
| カードを認識できません | カードが入っていません。または認識できません。 | カードを入れてください。またはカードを入れ直してください。カードを入れなくても、内蔵メモリがご使用になれます。 |
| このカードは<br>使用できません | 撮影･再生･消去することができません。 | クリーニングペーパーでカードの金色の金属部分を拭き、もう一度フォーマットしてください。<br>フォーマットできない場合、このカードはご使用になれません。 |
| カードが書き込み禁止に<br>なっています | カードが書込み禁止になっています。 | 撮影する場合はプロテクトシールをはがしてください。詳しくは、スマートメディアカードの取扱説明書をご覧ください。 |
| カードの<br>撮影可能枚数が 0です | カードの撮影可能枚数が 0 のため、撮影できません。 | カードを交換するか、不要な画像を消すか、画像をパソコンに取り込んでください。 |
| 内蔵メモリの<br>撮影可能枚数が 0です | 内蔵メモリの撮影可能枚数が 0 のため、撮影できません。 | カードを使用してカードバックアップするか、画像をパソコンに取り込んで不要な画像を消してください。 |
| カードに<br>画像が記録されていません | カードが再生できません。 | カードに画像が入っていません。撮影してから再生してください。 |
| 内蔵メモリに<br>画像が記録されていません | 再生できません。 | 内蔵メモリに画像が入っていません。撮影してから再生してください。 |
| この画像は<br>再生できません | 選択した画像が再生できません。 | 他社のカメラで撮影したカードやパソコンから入れた画像は再生できない場合があります。 |

## ●うまく操作ができない

### カメラが動かない

| 原因 | こうしましょう | 参照ページ |
|---|---|---|
| 電源が切れている | レンズバリアを開けて、電源を入れてください。 | P.23 |
| 電池の向きが正しくない | 電池を正しく入れ直してください。 | P.18 |
| 電池残量が少なくなった | 新しい電池を入れてください。 | P.18 |
| 寒さで電池の性能が一時的に低下した | 電池をポケットなどで温めてから使用してください。 | P.18 |
| 自動的に電源が切れた | レンズバリアをいったん閉じて、再び開けてください。 | P.23 |
| パソコンに接続している | パソコンに接続中は、カメラは動作しません。 | ー |
| カメラ内が結露した | 電源を入れないでしばらくおき、カメラを乾燥させてから、電源を入れてください。 | ー |

### フラッシュが発光しない

| 原因 | こうしましょう | 参照ページ |
|---|---|---|
| 明るい被写体である | フラッシュを強制的に発光させたい場合は強制発光モードにしてください。 | P.33 |
| 連写／動画／パノラマが設定されている | 連写／動画／パノラマ設定では、フラッシュはご使用になれません。 | P.32 |

### 液晶モニタが見にくい

| 原因 | こうしましょう | 参照ページ |
|---|---|---|
| 液晶モニタの明るさの設定が適切でない | 液晶モニタの明るさを調節してください。 | P.69 |
| 太陽光の下である | 太陽の光を手などでさえぎってください。 | ー |

### シャッターボタンを押しても撮影ができない

| 原因 | こうしましょう | 参照ページ |
|---|---|---|
| 電源が入っていない | レンズバリアを開けてください。 | P.23 |
| フラッシュの充電が完了していない。または、撮影後の処理中である | 一度シャッターボタンから指を離し、緑ランプの点滅が終わってから撮影してください。 | P.31 |
| 内蔵メモリまたはカードの容量がいっぱいになった | 不要な画像を消去するか、画像をパソコンに取り込むか、新しいカードを挿入してください。 | P.21, 55 |
| 撮影中やカードの書き込み中に電池が少なくなった | 新しい電池を入れてください。(緑ランプが点滅している場合は、完了するまでお待ちください。) | P.18 |
| カードにライトプロテクトシールが貼られている | 新しいカードを入れるか、シールをはがしてください。 | P.22 |

### 液晶モニタ上で再生ができない

| 原因 | こうしましょう | 参照ページ |
|---|---|---|
| 電源が入っていない | レンズバリアを閉じて、(回)ボタンを押し、液晶モニタを点灯させてください。 | P.23 |
| 内蔵メモリまたはカードに画像が記録されていない | 撮影してから再生してください。 | P.28 |

### 画像のプロテクト、1 コマ消去、全コマ消去、初期化ができない

| 原因 | こうしましょう | 参照ページ |
|---|---|---|
| カードにライトプロテクトシールが貼られている | シールをはがしてからご使用ください。シールは再使用しないでください。 | P.22 |

## ●画像の仕上がりがよくない

### できあがった画像が明るすぎる

| 原因 | こうしましょう | 参照ページ |
|---|---|---|
| フラッシュモードが「強制発光」になっていた | 一度レンズバリアを閉じるなどしてオート発光または発光禁止にして下さい。 | P.33 |
| 明るすぎる被写体に向かって撮影した | 露出補正をするか、カメラの向きを変えるなどの工夫をしてください。 | P.41 |

### できあがった画像が暗い

| 原因 | こうしましょう | 参照ページ |
|---|---|---|
| フラッシュを指などで覆ってしまった | カメラを正しく構えてください。 | P.27 |
| 撮りたいものがフラッシュ撮影範囲より遠かった | 2.5 m以内で撮影してください。 | P.31 |
| 逆光状態で小さい被写体を撮影した | フラッシュを「強制発光」に設定して撮影してください。 | P.33 |

### 室内で写した写真の色がおかしい

| 原因 | こうしましょう | 参照ページ |
|---|---|---|
| 照明の色が影響した | フラッシュを「強制発光」に設定して撮影してください。 | P.33 |
| 撮るものに白い部分がなかった | 白いものを入れて撮影するか、照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。 | P.44 |
| ホワイトバランスの設定を間違えた | 照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。 | P.44 |

## 画像の一部が欠けてしまった

| 原因 | こうしましょう | 参照ページ |
|---|---|---|
| レンズに指やストラップがかかってしまった | カメラを正しく構えてください。 | P.27 |
| 撮影距離が近かった | 液晶モニタを見ながら撮影してください。 | P.29 |

## ピントの合っていない写真ができた

| 原因 | こうしましょう | 参照ページ |
|---|---|---|
| シャッターボタンを押す時にカメラが動いてしまった（手ぶれ） | カメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押してください。 | P.27, 28 |
| レンズが汚れていた | レンズブロワー(市販)でほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパーでやさしく拭いてください。 | ー |
| マクロモードを正しく使っていなかった | 25～60cmの範囲に被写体がある場合はマクロモードを使ってください。 | P.35 |
| セルフタイマー撮影で、カメラの前に立ってシャッターボタンを押した | カメラの前に立たず、ファインダをのぞきながらシャッターボタンを押してください。 | P.36 |
| フラッシュの必要な暗い状況で、フラッシュを「発光禁止」に設定していた | シャッタースピードが遅くなり、露出時間が長くなりますので、三脚をご使用になるか、カメラをしっかり構えてください。 | P.27, 33 |

# アフターサービスについて

- 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」などの記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また、保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

- 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合は、お買い上げの販売店またはオリンパスサービスステーション（裏面参照）にご相談ください。取扱説明書などに従ったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。

- 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。また運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。

- 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に当社で保有しています。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店または、オリンパスサービスステーション（裏面参照）にお問い合わせください。

- 本製品の保証、修理、サービスは日本国内でのみ有効です。海外では修理できません。万一、海外で故障や不具合が生じた時は、お持ち帰り後に日本国内のオリンパスサービスステーション（裏面参照）までご依頼ください。

- 本製品の故障に起因する付随的損害(撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失など)については補償しかねます。

# 仕様

| | |
|---|---|
| **形式** | ：デジタルカメラ（記録・再生型） |
| **記録方式** | ：静止画　デジタル記録、JPEG（DCF 準拠）／DPOF 対応<br>動画　Quick Time Motion JPEG に準拠 |
| **記録媒体** | ：内蔵メモリ 1MB、スマートメディア（4/8/16/32/64/128MB） |
| **記録コマ数** | ：SHQ/ 約 1 枚、HQ/ 約 3 枚、SQ1/ 約 4 枚、SQ2/ 約 7 枚（内蔵メモリ使用時） |
| **連写** | ：1.3 コマ / 秒　8 枚以上（HQ、カード使用時） |
| **消去** | ：1 コマ消去、全コマ消去 |
| **撮像素子** | ：1/3.2 型（インチ）CCD 固体撮像素子<br>131 万画素（総画素数） |
| **記録画素数** | ：1280 X 960 ピクセル（SHQ・HQ モード）<br>1024 X 768 ピクセル（SQ1 モード）<br>640 X 480 ピクセル（SQ2 モード） |
| **ホワイトバランス** | ：フルオート TTL 、<br>プリセット（晴天、曇天、電球、蛍光灯） |
| **レンズ** | ：オリンパスレンズ 4.5㎜ 、F4、5 群 5 枚<br>（35㎜ フィルム換算 35㎜ 相当） |
| **測光方式** | ：撮像素子によるデジタル ESP 測光方式 |
| **露出制御方式** | ：プログラム自動露出 |
| **絞り** | ： F4 、F8 |
| **シャッター※** | ：1 ～ 1/2000 秒（メカニカルシャッター併用）<br>※マニュアル設定はできません。 |
| **撮影範囲** | ：0.6 m ～∞（通常モード）<br>0.25 m～∞（マクロモード） |
| **ファインダ** | ：光学実像式ファインダ（ターゲットマーク）、液晶モニタ |
| **液晶モニタ** | ：1.5 型（インチ）TFT カラー液晶 |
| **モニタ画素数** | ：約 114,000 画素 |
| **オンスクリーン表示** | ：日付時刻、コマ No.、プロテクト、画質モード、電池残量、ファイル No.、プリント予約、メニュー、他 |

**フラッシュ充電時間**：約 6 秒以下（常温時、新品電池使用）
**フラッシュ撮影範囲**：～ 2.5 m
**フラッシュモード**：オート発光（低輝度時自動発光、逆光時自動発光）、赤目軽減発光、発光禁止、強制発光、夜景、夜景赤目
**フォーカス**：パンフォーカス
**セルフタイマ**：作動時間約 12 秒
**外部コネクタ**：DC 入力端子、データ入出力端子（USB）、
**日付・時刻**：画像データに同時記録
**自動カレンダー機能**：1981 ～ 2031 年の範囲で自動修正
**カレンダー用電源**：内蔵キャパシタによるバックアップ
**カード機能**：DPOF 対応プリンタ予約、パノラマ合成（オリンパス製標準カード使用時）
**使用環境**
温度：0 ～ 40 ℃（動作時）／－ 20 ～ 60 ℃（保存時）
湿度：30 ～ 90%（動作時）／ 10 ～ 90%（保存時）
**電源**：単 3 アルカリ電池、ニッケル水素電池、またはニッカド電池 4 本。あるいは CR- V3（当社製 LB- 01）リチウム電池パック 2 個。または専用 AC アダプタ。単 3 マンガン電池は使用できません。
**大きさ**：幅 123㎜ ×高さ 65㎜ ×厚さ 44.5㎜（突起部含まず）
**質量**：190g（電池／カード別）

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

# 索引

### 英数



### あ行



### か行



### さ行



### た行

### な行



### は行



### ま行



### や行



### ら行

OLYMPUS®


オリンパス光学工業株式会社

〒163-8610　東京都新宿区西新宿 1-22-2　新宿サンエービル


## アクセスポイント（製品に関するお問い合わせ）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 札　幌 | 011-231-2338 | 金　沢 | 076-262-8259 |
| 仙　台 | 022-218-8437 | 大　阪 | 06-6252-0506 |
| 新　潟 | 025-245-7343 | 高　松 | 087-834-6180 |
| 松　本 | 0263-36-2413 | 広　島 | 082-222-0808 |
| 東　京(八王子) | 0426-42-7499 | 福　岡 | 092-724-8215 |
| 静　岡 | 054-253-2250 | 鹿児島 | 099-222-5087 |
| 名古屋 | 052-201-9585 | 沖　縄 | 098-864-2548 |

※ 上記のアクセスポイントまでお電話いただければ、オリンパスカスタマーサポートセンターに転送されます。アクセスポイントまでの電話料金はお客様負担となります。なお、調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

**営業時間　9：30～17：00（土・日曜、祝日および弊社休業日を除く）**

※ オリンパスホームページ　http://www.olympus.co.jpでデジタルカメラおよび関連製品の情報の提供をしております。

## 国内サービスステーション（修理受付窓口）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 東　京 | 〒101-0052 | 千代田区神田小川町 1-3-1　小川町三井ビル(オリンパスプラザ内) | Tel.03(3292)1931 |
| 札　幌 | 〒060-0034 | 札幌市中央区北４条東 1-2-3　札幌フコク生命ビル | Tel.011(231)2320 |
| 仙　台 | 〒981-3133 | 仙台市泉区泉中央１-13-4　泉エクセルビル | Tel.022(218)8421 |
| 新　潟 | 〒950-0087 | 新潟市東大通り 2-4-10　日本生命新潟ビル | Tel.025(245)7337 |
| 松　本 | 〒390-0815 | 松本市深志 1-2-11　松本昭和ビル | Tel.0263(36)5331 |
| 名古屋 | 〒460-0003 | 名古屋市中区錦 2-19-25　日本生命広小路ビル | Tel.052(201)9571 |
| 金　沢 | 〒920-0961 | 金沢市香林坊 1-2-24　千代田生命金沢ビル | Tel.076(262)8257 |
| 大　阪 | 〒542-0081 | 大阪市中央区南船場 2-12-26　オリンパス大阪センター | Tel.06(6252)6991 |
| 高　松 | 〒760-0007 | 高松市中央町 11-11　高松大林ビル | Tel.087(834)6166 |
| 広　島 | 〒730-0013 | 広島市中区八丁堀 16-11　日本生命広島第２ビル | Tel.082(228)3821 |
| 福　岡 | 〒810-0004 | 福岡市中央区渡辺通 3-6-11　福岡フコク生命ビル | Tel.092(761)4466 |
| 鹿児島 | 〒892-0846 | 鹿児島市加治屋町 12-7　日本生命加治屋町ビル | Tel.099(225)1105 |
| 沖　縄 | 〒900-0015 | 那覇市久茂地 3-1-1　日本生命那覇ビル | Tel.098(864)5396 |

※ 土・日曜、祝日および年末年始は原則として休業させていただきます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。


1AG6P1P1037-B　　VT275203